芒

〔續日本紀二十六稱德〕天平神護元年二月庚寅、左右京籾各二千斛、糶於東西市、籾斗百錢、

〔文德實錄五〕仁壽三年三月丁巳、以穀倉院籾鹽給京師患疱瘡者、

〔空穗物語藤原の君〕そのつみにおそろしきやまひつきて、ほど〳〵敷いますかる、いちめまつりはらへせさせんとする時にの給、あたら物を、我ためにちりばかりのわざすなはらへすとも、うちまきによねいるべし、もみにてたねなさばおほく成べし、

〔新撰字鏡草〕芒乃支

〔倭名類聚抄十七稻芒穗等附〕稻○中略　薩珣切韻云、芒音與亡同、和名乃木、禾穗芒也、

〔箋注倭名類聚抄九稻穀具〕乃歧見曾丹集歌、今俗或訛呼乃偈、○中略　說文、芒草端也、按禾芒亦芒之一端、

〔東雅十三穀蔬〕稻イヲ○中略　倭名鈔に、○中略　芒はノキ、禾穗芒也と注せしは、ノとは直也、キとは凡物の光鋭なるを、古語にはキといひ、ケといひけり、

〔倭訓栞前編乃二十三〕のぎ　新撰字鏡に芒をよめり、芒刺をいふ也、

のげ　のぎの俗語也

粃

〔倭名類聚抄十七稻〕粃　野王按、粃比之反去聲、和名之比奈世、穀實、但有皮而無米也、

〔箋注倭名類聚抄九稻穀具〕今本玉篇、米部無粃字、禾部有秕字云、穀不成也、按左傳若其不具粃稗也、杜預注、秕穀不成者、顧氏蓋本之、說文、秕不成粟也、又有粃字云惡米也、周書有粃誓、然則訓穀不成、秕字從禾、不當從米、然慧琳音義引玉篇云、粃穀之不成者也、或作秕、所見玉篇似從米以從禾爲或字、不與今本同、源君所據、或與慧琳同、故其字從米也、

〔類聚名義抄七米〕粃秕二正、音比之去聲、和名シヒナセ、シヒタ、

〔伊呂波字類抄志飲食〕粃シヒナ、シヒナセ、穀室但有皮而無禾也、